

附属学校部

附属学校部の設置とその役割について

附属学校部長 生田 周二

附属学校部のミッション

本年度四月から発足した附属学校部のミッションは、大学の方針の下に、附属学校の三つの方向性に沿って組織的に運営を行い、機能の充実と連携に努め、教育課題に対応していくことです。

三つの方向性とは、研究連携機能・地域のモデル校機能・教育実習機能を指し、本学の中期目標では次のように述べられています。

(1)「幼稚園・小学校・中学校教育の在り方を、大学との共同研究のもとに理論と実践の両面から研究し、これからの時代にふさわしい教育の構築を目指す」

(2)「実践及び実践開発の成果を広く外部の学校関係者に公開する」

(3)「大学学部と連携し、教育実習プログラムによる、より質の高い実習を行う」

附属学校部の運営

附属学校部には、運営を統括する附属学校部長、運営の在り方について審議する運営委員会が置かれ、月1回の会議を開いています。ここでは、「管理・運営」、「研究連携」、「教育課程・教育実習」、「広報・地域連携・全国附属学校連盟」の4つに

項目に分けて議論しています。

今後の展望と附属学校の新たな使命を見通しつつ、より機能的に取り組みや議論が進められるように、附属学校教員と大学教職員とで知恵を絞り、マネージメントを行っていくのが附属学校部だと考えます。

大学の中での位置

三附属学校園に通っている幼児・児童・生徒数は、幼稚園145名・小学校626名・中学校485名の計1,256名です(2008年4月時点)。この数字は、大学・大学院の学生数約1,300名に匹敵します。

このように、大学において大きな位置を占める附属学校の三校園は、相互の連携ならびに大学との研究・教育連携を目指しています。今後とも、附属学校の教育の充実発展のためにご協力をお願いいたします。

幼稚園

あふれる秋の自然を取り入れて

附属幼稚園副園長 上野 由利子

トンボとり

坂の上にある附属幼稚園は、空が広く感じられます。登園する子どもたちは浮かぶ雲を見つけ、「アヒルさんみたい」などと名前をつけます。そんな幼稚園の特色の一つに、豊かな自然を生かした保育が挙げられます。運動場の真ん中にある丸芝生の上には、多い時には10匹以上のアキアカネが手の届く所を飛び回ります。子どもたちは、ネットを使い、針金を通したり糸で袋状にかがったりして虫取り網を作り、トンボとりを楽しみます。初めはなかなか思うように捕れないけれど、そのうちにコツをつかんだトンボとり名人が現れます。虫かごいっぱい集めたトンボは、帰る頃には逃がしてやるのですが、虫眼鏡でトンボを観察して絵を描く子どももいます。

草花の色水づくり

草花や木の実を使って、色水づくりをしています。ヨウシュヤマゴボウやマリゴールド、オシロイバナ、黄花コスモス、つゆ草などを見つけては、棒でつぶしたりすり鉢ですったりして、色を出します。透明容器に入れて、色合いや濃さを比べ



トンボとり

て楽しんでいきます。鮮やかな紫色をしたムラサキシキブの実は、どんなに細かくつぶしても期待の色が出ず、実をそのまま浮かべて一緒に並べていました。

秋の自然を活用した遊び

ジュズダマも黒光りする実をたくさんつけます。針金に通してネットレスにしたり、容器に入れてマラカス楽器を作ったりします。どんぐりの実は、軸をつけてコマにしたり、パチンコ遊びの玉になったりします。キンモクセイの花を集めておい袋もできました。

秋の自然を活用した遊びを楽しみながら、感性を豊かにするとともに、科学への興味も育つてほしいと考えています。

小学校

親と教師との共同で学校づくり

附属小学校教諭 奥本 文夫

PTA活動を「教育を語る場」に

子どもの健やかな成長には、その教育に直接関わる教職員と保護者との意思の疎通が不可欠です。そこで本校では年一回、「PTA研究会」を開催しています。昨年度は「半日だけのタイムスリップ」と銘打って、八教科別の分科会を持ちました。教員が『先生』、保護者が『生徒』という授業の形態で、教科教育で大事にしていることを示しました。今年校長の生田周二先生に「今、子どもたちは」という講演をお願いしています。また、クラス懇談会や文化講座・PTA実行委員会などで、子育てについての具体的な話し合いを恒常的に行っています。これらが、教職員の教育理念と保護者の教育要求との合意を広げる場になることを願っています。



子どもの安全を守る取り組み

子どもの安全を守る日常的な取り組みを、保護者・地域の人たちと一緒に進めています。PTAの生活安全部や保健委員会を中心に、次のような活動を行っています。

①不審者による犯罪から守るために、安全マップ作り、「あすか子供安全ネットワーク」と合同での一斉下校会、また全

庭に腕章と校内に入る名札を配布しています。

②事故や怪我から守るために、バスの乗り方を含めた交通安全指導、校内の危険箇所の点検等を行っています。



③健康な生活や食の安全に関しては、養護教諭・栄養教諭と保健委員会で緻密な取り組みがなされています。給食の食材についての吟味等は特に厳しくしています。

PTA活動は一人一役で (ボランティア活動)

「役員・委員の負担が軽く、多くの人がか動くPTA活動」が望ましいと考えています。そこで、すべての親に義務ではなく、「我が子の通う学校のために何かできること」を家庭の生活スタイルに合わせてやってもらっています。

①ベルマーク運動の呼びかけ及び集計作業への参加。
②休日に親子で取り組む行事を企画・運営する母体として『たかまどの会』があります。現在、世話人は男性十余名(保護者OB2名)です。体育大会等の学校行事での安全管理をはじめ、「親子プール」「正月

中学校

大学研究室訪問

附属中学校三年学年主任 奥原 牧

附中生、学問の世界に触れる

本校の三年生が、総合的な学習の一つとして取り組んでいる大学研究室訪問は、七年目を迎えることになりました。この間に、各協力をいただきました大学の先生方、各関係の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

この研究室訪問は、「学問の世界に触れ、学びの方法を知る」というテーマで、約一六〇名が研究室を訪問させていただきました。専門分野のお話や研究の道に入られた経緯などを伺いながら、学ぶことの意味やその方法について知り、学問の世界の深さと広がりを知るとともに、学ぶことから得られる充実感や喜びについて知るところをねらいとしています。

研究室訪問を経験したある生徒は、「ゾウリムシは、ある意味全能の細胞というのを聞いて、肉眼で見えるか見えないかぐらいの小さな微生物なのに、人よりすごいところがあるんだと思うと、人もちっぽけな存在に思えてきました。」など新鮮な驚きを述べていました。この研究室訪問を通して、自分たちの知らない世界に触れ、知的好奇心が刺激された生徒や、もの見方が少し変わったという生徒もいます。大学の附属中学校ならではの取

り組みに、生徒はもちろんのこと、保護者や教員も大変喜んでいきます。

「卒業研究」に活かそう、未来の研究者たち

現在本校の三年生は、自分が興味・関心を持ったことをテーマにした「卒業研究」に取り組んでいます。今回の研究室訪問で、大学の先生方からいただいた示唆や刺激を、生徒個々の「卒業研究」の充実と完成という形で反映させているところです。また、自分の進路を考えるに当たって、強い影響を受けた生徒もいました。大学の先生方の研究に傾ける情熱に触発され、「研究の道」という進路に興味を持った生徒もいるようです。今回の研究室

訪問に参加した「附中生」の中から、未来の研究者が生まれることを期待します。最後になりましたが、大学と附属中学校が連携した「研究室訪問」の取り組みが長く継続することを強く願っています。



研究室訪問